

G空間×ICT推進会議（第8回会合）議事要旨

1. 日時

平成27年12月17日（木）13:00～13:50

2. 場所

東京ステーションカンファレンス 501ABS会議室

3. 出席者

（1）構成員（座長を除き構成員50音順）

柴崎座長、竹本代理（伊藤構成員）、猪瀬構成員、岡田構成員、菅原代理（梶浦構成員）、河口構成員、菊池構成員、越塚構成員、島村構成員、岡本代理（谷口構成員）、元橋代理（塚田構成員）、山田代理（中川路構成員）、松山構成員、目黒構成員、野口代理（山本構成員）、吉田構成員

（2）オブザーバー

内閣副官房長官補室、内閣官房IT総合戦略室、内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付、内閣府政策統括官（防災担当）付、文部科学省研究開発局、農林水産省大臣官房、国土交通省大臣官房、国土交通省国土政策局、国土交通省国土地理院、防衛省防衛政策局

（3）総務省

松下総務副大臣、南政策統括官、池永審議官、技術政策課研究推進室、宇宙通信政策課、情報流通振興課、地域通信振興課、地域通信振興課地方情報化推進室、消防庁防災課防災情報室

4. 議事要旨

（1）松下総務副大臣挨拶

- 松下総務副大臣より以下のとおり挨拶があった。
 - ・ 次世代G空間社会の構築に向け、これまでの産学官民連携により行った実証事業の成果を活かし、横展開できるように関係省庁との連携を図りながら取り組んでいく。

（2）柴崎座長講演

- 柴崎座長よりG空間情報による社会的な課題の解決支援、G空間情報センターの貢献について講演があった。

(3) 意見交換

- 柴崎座長及び構成員より意見交換がなされた。主な発言は以下のとおり。

【河口構成員】（名古屋大学大学院）

- ・ 来年度よりG空間情報センターが運用されることに期待している。我々は過去に、福岡西鉄バス会社等と一緒に移動体データの付加価値を高める目的で、移動体データ銀行を作る実証を行った。具体的には、コアとなるデータセンターを作り、各企業に銀行の企業内支店を作ったが、実際にはデータの授受や管理が困難であった。G空間情報センターにおいても、リアルタイムなデータやプライバシー性が高いデータを集めるのは、難しいのではないか。

【柴崎座長】

- ・ 確かに難しいが、様々なアプローチ方法がある。例えば、生データをそのまま集めるのではなく、生データをある程度処理して、必要なものだけを抽出し、それを匿名化して集める方法がある。そのデザインができれば、よりスムーズにデータを集められるのではないか。バスやタクシーの運行情報は、それぞれの事業者間で情報共有できた時のメリットが大きく、両者を連携させる必要がある。困難な点は多いが、成功事例を増やすしかないと思う。

【河口構成員】（名古屋大学大学院）

- ・ G空間データを解析するソフトウェアは、まだまだ足りないのが現状。G空間情報センターでは、オープンな解析ソフトウェアができると非常に良い。

【柴崎座長】

- ・ そのとおりだと思う。G空間情報センターはデータを集めるだけではなく、ソフトウェアの構築やキュレーションが重要な役割を果たす。

【岡田構成員】（日本電気株式会社）

- ・ G空間情報センターに集めたデータを、一気に海外展開するのは難しいが、海外に展開できるようになれば、世界に貢献できると思う。

【柴崎座長】

- ・ そのように認識している。オープンソースはすぐに海外展開できると思う。

【猪瀬構成員】（NTT空間情報株式会社）

- ・ G空間情報センター構想に期待している。ネットワークの活性化のためにはデータのオープン化が必要だが、国や自治体が企業へ情報を提供するための具体化がなされていないことや、企業がデータをオープンにすることへの障害もある。これらについて、スピード感を持って改善することが必要。

地域活性化でいうと、地元企業が元気でないと雇用が生まれない。G空間情報センターが地域を活性化するための仕掛けを考えてほしい。また、G空間情報システムを把握できている人材が少ない。ボランティアを含めて人材育成に取り組まないとネットワークが広がらないので、人材育成にも力を入れてほしい。

【柴崎座長】

- ・ データのオープン化については、関係者と連携が取れていると思う。地域活性化については、大学やNPOなど、地域の拠点機関がデータを出し、それを我々がどのようにサポートして行くか、といったことが最初の一步であると思う。また、人材育成の面では、例えば大学が学生に授業を受けさせるだけでなく、一緒に授業を立ち上げるなど、柔軟な姿勢で取り組みたい。

以上